



## 平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社東急レクリエーション

コード番号 9631 URL <http://www.tokyu-rec.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 菅野 信三

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長

(氏名) 堀江 真二郎

TEL 03-3462-8870

四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日

配当支払開始予定日

平成26年9月22日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	15,472	11.8	655	96.0	615	126.4	276	5.0
25年12月期第2四半期	13,839	△0.4	334	100.8	272	113.7	263	116.5

(注) 包括利益 26年12月期第2四半期 268百万円 (△66.3%) 25年12月期第2四半期 795百万円 (406.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	9.42	—
25年12月期第2四半期	8.97	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年12月期第2四半期	41,364	21,050	50.9
25年12月期	41,865	20,874	49.9

(参考) 自己資本 26年12月期第2四半期 21,050百万円 25年12月期 20,874百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	3.00	—	3.00	6.00
26年12月期	—	3.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,341	0.4	757	△28.0	619	△32.6	319	△45.0	10.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年12月期2Q	31,937,474 株	25年12月期	31,937,474 株
26年12月期2Q	2,605,710 株	25年12月期	2,598,118 株
26年12月期2Q	29,335,937 株	25年12月期2Q	29,356,131 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項については、【添付資料】3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による各種政策の効果により、円安・株高傾向が継続するなか、企業収益に改善が見られ、個人消費も増加するなど景気は緩やかな回復基調となりました。

しかしながら、世界経済の下振れ懸念が依然として残り、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響等もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、平成26年5月13日付で新たに策定した経営ビジョン「エンターテイメント ライフをデザインする企業へ」の実現に向け、大幅な組織変更を行いました。主幹事業である映像事業を中心に、新設したライフ・デザイン事業、安定的収益基盤としての不動産事業の3事業を柱とし、盤石な経営基盤を構築し、さらなる成長を実現するために積極的な営業活動を行ってまいりました。

この結果、売上高は15,472百万円（前年同期比11.8%増）、営業利益は655百万円（前年同期比96.0%増）、経常利益は615百万円（前年同期比126.4%増）となり、事業所閉鎖に伴う減損損失等を計上したことにより、四半期純利益は276百万円（前年同期比5.0%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

#### ① 映像事業

映画興行事業におきましては、「アナと雪の女王」「永遠の0」「アメイジング・スパイダーマン2」「ゼロ・グラビティ」「テルマエ・ロマエⅡ」等の上映作品が好評を博し、特に「アナと雪の女王」は社会現象になるほどの記録的大ヒットとなり、収益に大きく貢献いたしました。

このような状況のなか、各シネマコンプレックスにおきましては顧客ニーズに合わせた番組編成により客席稼働率を上げるとともに、コンセッションや劇場内でのシアタープロモーションによる付帯収入の獲得に努め、収益力向上をはかってまいりました。

この結果、売上高は8,060百万円（前年同期比25.8%増）となり、徹底したコストコントロールによる効率的な運営を実践してきたことにより、営業利益は503百万円（前年同期は10百万円の営業利益）となりました。

#### ② ライフ・デザイン事業

ボウリング事業及びフットサル事業におきましては、地域の特性に合わせたサービスを提供するとともに、利用者に訴求力のある各種大会・イベントなどの企画・開催、スクールの充実などに取り組み、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

コンビニエンス事業におきましては、1月に開業いたしました「ファミリーマート本駒込一丁目店」（文京区本駒込）をはじめとした都心に展開する各店舗において、プライベートブランド商品、季節型商材の積極的な販促並びに効率的な店舗運営に努め、収益の拡大をはかってまいりました。

飲食事業におきましては、「食彩健美 野の葡萄」「モスバーガー」の各店舗にて充実したメニューを揃えるとともに、きめ細やかなサービスや施設のクレンリネスの徹底などを心掛け、清潔で快適な店舗運営を推進してまいりました。

ランキン事業におきましては、「ランキンランキン e k i m o なんば店」（大阪市中央区）など直営4店舗体制のもと、各店舗とも、ブランドの価値向上をはかりながら、話題の商品・情報を提供していくとともに、積極的な販促活動を行い、収益力の強化に努めてまいりました。

ホテル事業におきましては、国内旅行回帰の傾向が若干見られるものの、業界全体では新規ホテルの出店が続く、依然として続く厳しい事業環境のもと、宿泊主体型の「ホテル東急ビズフォート広島」（広島市中区）並びに「熊本東急イン」（熊本市中央区）において、インターネットを利用した販促活動や満足度の高い宿泊パック等を提供するなど、顧客の獲得をはかり、客室単価及び稼働率維持に努めてまいりました。

この結果、新規事業所の開業などにより、売上高は3,340百万円（前年同期比4.1%増）となりましたが、ボウリング事業及びランキン事業を取り巻く市場環境は依然として厳しく、営業損失は74百万円（前年同期は2百万円の営業損失）となりました。

③ 不動産事業

不動産事業におきましては、当社直営ビル及びマスターリースビルの双方において、テナント企業からの賃料見直しや退去等により、賃料は緩やかな下落を続け、引き続き厳しい事業環境となりました。

このような状況のなか、「池袋とうきゅうビル」(豊島区東池袋)、「宇田川町TRビル」(渋谷区宇田川町)をはじめとする当社直営ビル、「三郷中央駅前ビル」(埼玉県三郷市)などのマスターリースビルにおきましては、各ビルの特性に合わせた事業環境の整備に取り組み、安定収益の確保に努めてまいりました。

この結果、売上高は3,664百万円(前年同期比3.7%減)となり、営業利益は664百万円(前年同期比12.7%減)となりました。

④ その他

ビル管理事業におきましては、オフィスビルを中心にビルメンテナンス・安全管理における高いニーズに応えるとともに、クオリティーの高い技術力とサービスの提供に努めてまいりました。

この結果、売上高は406百万円(前年同期比1.7%減)となり、営業利益は49百万円(前年同期比32.2%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産、負債、純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ500百万円減少し、41,364百万円となりました。これは主に有形固定資産が426百万円減少したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ676百万円減少し、20,314百万円となりました。これは主に買掛金が678百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ175百万円増加し、21,050百万円となりました。これは主に利益剰余金が188百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、当初の連結業績予想を上回ることができましたものの、通期の連結業績予想につきましては、市況並びに需要動向の影響に負うところもあるため、平成26年2月14日に公表いたしました業績予想数値を据え置くことといたします。

今後、何らかの変化がある場合には適切に開示してまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,052,027	959,128
受取手形及び売掛金	1,176,024	1,115,233
商品	200,675	203,046
貯蔵品	74,228	60,508
繰延税金資産	119,370	137,559
その他	3,317,695	3,293,082
貸倒引当金	△588	△534
流動資産合計	5,939,433	5,768,023
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,748,224	8,462,750
土地	9,908,024	9,908,024
その他(純額)	1,436,217	1,295,057
有形固定資産合計	20,092,466	19,665,832
無形固定資産		
1,103,814	1,103,814	1,078,281
投資その他の資産		
投資有価証券	3,864,905	3,852,991
差入保証金	9,195,451	9,353,408
繰延税金資産	76,088	91,195
その他	1,593,662	1,555,393
貸倒引当金	△726	△606
投資その他の資産合計	14,729,381	14,852,383
固定資産合計	35,925,661	35,596,497
資産合計	41,865,094	41,364,521

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,150,252	1,471,405
短期借入金	1,000,000	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	620,818	620,925
未払法人税等	221,603	199,809
引当金	82,100	38,102
その他	2,239,814	2,544,359
流動負債合計	6,314,589	6,074,603
固定負債		
長期借入金	1,054,745	744,256
再評価に係る繰延税金負債	2,581,782	2,581,782
退職給付引当金	291,044	305,069
資産除去債務	1,338,125	1,333,163
受入保証金	6,831,385	6,786,043
その他	2,579,067	2,489,254
固定負債合計	14,676,150	14,239,569
負債合計	20,990,740	20,314,172
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,028,813	7,028,813
資本剰余金	7,061,207	7,061,312
利益剰余金	2,991,242	3,179,450
自己株式	△1,394,922	△1,399,558
株主資本合計	15,686,340	15,870,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	779,144	771,461
土地再評価差額金	4,408,869	4,408,869
その他の包括利益累計額合計	5,188,013	5,180,330
純資産合計	20,874,354	21,050,349
負債純資産合計	41,865,094	41,364,521

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	13,839,659	15,472,386
売上原価	13,016,574	14,331,184
売上総利益	823,085	1,141,201
販売費及び一般管理費	488,754	485,970
営業利益	334,331	655,230
営業外収益		
受取利息	11,424	10,593
受取配当金	27,685	28,788
その他	7,056	8,021
営業外収益合計	46,166	47,402
営業外費用		
支払利息	89,794	82,666
持分法による投資損失	5,971	—
その他	12,711	4,031
営業外費用合計	108,477	86,697
経常利益	272,020	615,935
特別利益		
固定資産売却益	8,252	100
特別利益合計	8,252	100
特別損失		
固定資産売却損	114	115
固定資産除却損	1,362	1,802
減損損失	824	165,245
その他	—	21,754
特別損失合計	2,302	188,918
税金等調整前四半期純利益	277,970	427,117
法人税等	14,780	150,891
少数株主損益調整前四半期純利益	263,190	276,225
四半期純利益	263,190	276,225



四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	263,190	276,225
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	532,747	△7,682
その他の包括利益合計	532,747	△7,682
四半期包括利益	795,937	268,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	795,937	268,543
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## I 前第2四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	ライフ・ デザイン事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	6,410,058	3,209,226	3,806,309	13,425,594	414,065	13,839,659	—	13,839,659
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	26,609	26,609	437,912	464,521	△464,521	—
計	6,410,058	3,209,226	3,832,918	13,452,203	851,977	14,304,181	△464,521	13,839,659
セグメント利益 又は損失(△)	10,681	△2,237	761,563	770,008	37,400	807,408	△473,077	334,331

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△473,077千円には、セグメント間取引消去△285千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△472,791千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	映像事業	ライフ・ デザイン事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	8,060,703	3,340,484	3,664,371	15,065,559	406,826	15,472,386	—	15,472,386
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	15,833	15,833	450,882	466,716	△466,716	—
計	8,060,703	3,340,484	3,680,204	15,081,393	857,709	15,939,102	△466,716	15,472,386
セグメント利益 又は損失(△)	503,920	△74,491	664,843	1,094,271	49,426	1,143,698	△488,467	655,230

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビル管理事業、アミューズメント事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△488,467千円には、セグメント間取引消去△1,377千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△487,089千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の一般管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は平成26年5月13日付の組織変更に伴い、当第2四半期連結会計期間より報告セグメントを、従来の「映像事業」「スポーツ・レジャー事業」「不動産事業」から「映像事業」「ライフ・デザイン事業」「不動産事業」へ変更しております。「ライフ・デザイン事業」は従来の「スポーツ・レジャー事業」に「不動産事業」に含んでおりましたホテル事業と「その他」に含んでおりましたランキン事業を移管したものであります。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分方法に基づき作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。